

リトミックにおけるグループの活用方法に関する研究 —リトミック指導書の比較を通して—

A Study of an Approach to Forming Groups in Eurhythmics.
—Through Comparing Teaching Books—

連 桃季恵 (人間科学部こども学科助教)

Tokie MURAJI (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Assistant Professor)

〈要旨〉

保育現場における音楽教育の一つとしてリトミックが挙げられる。その際、2人組や3人組などグループで活動することが多い。しかし、幼児の年齢や発達を踏まえたグループ活動の在り方については、その人数や内容に不明瞭な点が多い。そこで本研究は、年齢別に活動内容が記載された指導書を調査し、幼児の年齢別におけるグループ活動がどのように活用されているのか明らかにすることを目的とした。その結果、3歳児と4歳児において指導書ごとにグループを取り扱う数に違いが見られた。また、グループなどの活動形態を用いる目的として、音楽的な側面や身体的な側面の育成は多く見受けられたが、全般的な側面を目的として挙げた活動は「協力して動く」「集中力をやしなう」のみであった。そして、グループの種類ごとに年齢別に多く用いられていた指導目的と、3歳児、4歳児、5歳児を通して見られた全体的な活用方法の種類についてまとめた。

〈キーワード〉

リトミック, 幼児, グループ, 活用方法

1 問題と目的

保育現場における音楽活動の一つとして、リトミックが用いられており、その際、例えば、2人組や3人組などのグループを形成して活動することが多く見受けられる。このようにグループで活動することは、リトミックの教授法において、どのような位置づけにあるのだろうか。

リトミックは、E.J.ダルクローズによって創案され、音楽をより良く学ぶために音楽と動きを密接に結びつけたメソッドだが、音楽能力の育成に留まらず全人的な成長を目指している (ダルクローズ, 2003)。またリトミックの目的や目標、方法に関しては、さまざまなリトミック指導者によって分類され整理されている。

菅沼 (2010) は、ダエストロム=ジュリアがE.J.ダルクローズ自身の手書きのレッスン記録を整理した“Cours du Vendredi 1931-1932”に挙げられている69項目を、音楽に関する事項=A群、動き、空間に関する事項=B群、全般的な事項、人間の能力・方法=C群として分類した。そしてこれらの事項は、時にはエクササイズの目的となり、時には手段として扱われていた可能性があるとして述べている

(菅沼, 2010)。グループに関係する記述としては、「全般的な事項、人間の能力・方法 (C群)」において、“グループ”、“集団”、“集団遊び”といった事項が示されている。

また井上・酒井 (2012) は、リトミックの指導計画を立てる際に必要なこととして、音楽的要素、身体的要素、総合的要素を挙げており、その要素は複合的にかかわりを持ち、目的にも、方法にもなり得ると述べている。その分類された事項の中に、グループという直接的な事項は示されていないが、総合的要素において“共感する”、“共有する”“協調する”“コミュニケーションをとる”“模倣する”といったグループに関連する事項が取り上げられている。

さらにバンドゥレスパー (Elizabeth Vanderspar) (2012) は、リトミックの活動において子ども達に大きなグループ、小さなグループ、2人組、または個人で、課題に取り組む機会が与えられるべきであると述べている。

以上のように、グループで活動することは、リトミックの活動を組み立てるうえで、方法にも目的・目標にもなり得る重要な役割をもっていると考えられる。

一方、幼児を対象としてリトミックを行う際は、幼児の発達を踏まえた活動内容を考える必要があるが、グループの用い方に関しても同様であると思われる。バンドゥレスパー（2012）は、グループで行う活動方法を年齢別に示しており、それらの表記を変えてまとめたものが表1である。また石丸（2017）は、リトミックの活動を組み立てる上で必要な事柄について年齢別に示しており、その中でグループでの活動に関しても述べている。それらを表にまとめたものが表1である。バンドゥレスパー（2012）と石丸（2017）を対照すると、3歳児では齟齬が見られ、また4歳児では比較することができなかった。

そこで本研究は、グループでの活動が幼児の年齢別においてどのように活用されているのかについて、リトミックに関する指導書を調査することを通して明らかにすることを目的とする。

2 方法

2-1 調査対象

リトミックに関する指導書において、3歳児、4歳児、5歳児別に指導の内容などが記載された4種類の指導書（表2）を調査対象とした。

2-2 調査内容

バンドゥレスパー（2012）が示した活動形態は、「大きなグループ、小さなグループ、2人組、または個人」であった。本研究では、上記の活動から「個人」の活動を省き、「①2人組=何人組」、「②小さなグループ=クラスを何グループかに分ける」、「③大きなグループ=全員」をグループ活動とし、この3種類の活動形態に着目して調査した。

まず、調査対象の指導書に記載されている活動内容のうち、「何人組で」、「何グループで」、「全員で」行われている活動を全て抽出した。次に、指導書ごとに年齢別で示されているグループの活用方法を把握し、その後、総合的な活用方法について年齢別に考察した。

表1 幼児の年齢ごとにおけるグループ活動の取り入れ方

	バンドゥレスパー（Elizabeth Vanderspar）（2012）	石丸（2017）
3歳児	概してひとりで活動する方が、だれかと組んで何かをするよりうまくいく。なぜなら、彼らはパートナーに興味を示さないか、あるいは相手と離れられなくなってしまうからである。	グループでの活動ができるようになってくる。2人組、3人組などの活動を通して、上手に人と関わることを学ぶのが良い。
4歳児	ある程度2人組になって動くことができる。あまり長すぎず素早い動作でなければ、列になっても動ける。また丸になって歩くことに慣れているならば、円体型も可能である。	（記載なし）
5歳児	自由な、様々なグループの活動が可能である。円や列、文字の形を使うことができるだろう。列をうまく使うのが良い。そしてリーダーが列の最後に気を配って、早く歩きすぎて、おしまいの方が列から飛び出してしまうことのないように、配慮できるようにする。	自分がリーダーになったり、リーダーに従ったりとさまざまな立場の場面が出てくるように工夫するのが良い。2人組・3人組で、各々が違う役割の活動にも挑戦するのが良い。

表2 年齢別に指導内容が記載されている指導書と本研究での掲載番号

番号	編集者	発行年	タイトル	出版社
I	板野平	1975	動きのためのピアノ即興演奏法：リトミック・プレイルーム	ひかりのくに
II	全日本リトミック音楽教育研究会〔編〕 板野平・溝上日出夫〔監修〕	1986	ダルクローズ・システムによるリトミック指導 1：3歳児用	全音楽譜出版社
		1985a	ダルクローズ・システムによるリトミック指導 2：4歳児用	全音楽譜出版社
		1985b	ダルクローズ・システムによるリトミック指導 3：5歳児用	全音楽譜出版社
III	石井亨・江崎正剛	1992	改訂新版 楽しいリトミック1	オブラ・パブリケーション
		1993	改訂新版 楽しいリトミック2	オブラ・パブリケーション
		1995	改訂新版 楽しいリトミック3	創芸書房
IV	神原雅之	2013	楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック	ナツメ社

3 結果と考察

3-1 各指導書の年齢別におけるグループを活用した活動の掲載数について

4種類の指導書において年齢別にどれくらいのグループ活動が取り上げられているのか調査した結果を以下に示す。

板野（1975）では、グループでの活動数は、3歳児が極めて多く、続いて5歳児多く、4歳児が一番少なかった。全日本リトミック音楽教育研究会〔編〕（1985a, 1985b, 1986）では、3歳児が一番少なく、4歳児は3歳児の2倍の数が確認され一番多かった。石井・江崎（1992, 1993, 1995）では、3歳児が極めて少なく、4歳児と5歳児はおおよそ同数であった。神原（2013）では、3歳児、4歳児、5歳児ともにおおよそ同じ数において取り上げられていた。

4種類の指導書を比較すると、3歳児と4歳児において取り上げられたグループ活動数が少なかったり多かったりと、違いが生じていることが分かった。

3-2 何人組での活動について

何人組で行う活動の目的と活用例に関して指導書ごとにまとめたものを表3に示す。表には、板野（1975）「動きのためのピアノ即興演奏法：リトミック・ブレイルム」はⅠ、全日本リトミック音楽教育研究会〔編〕（1985a, 1985b, 1986）「ダルクローズ・システムによるリトミック指導1, 2, 3」はⅡ、石井・江崎（1992, 1993, 1995）「改訂新版 楽しいリトミック1, 2, 3」はⅢ、神原（2013）「楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック」はⅣと記載する（以下、省略）。

表3 年齢別における「何人組」の活用方法について

		3歳児	4歳児	5歳児
Ⅰ	目的	・基礎リズム（四分音符、八分音符、二分音符、スキップ） ・様々な速度 ・拍子 ・即時反応 ・歌に親しむ ・いろいろな動作の工夫や模倣	・基礎リズム ・即時反応 ・フレーズ ・協力して動作をする	・拍 ・リズムパターン ・リズムフレーズ ・和音の分解唱 ・ドレミファソラシドの聞き分け
	活用例	○2人組・3人組など ・一人での動きから指導者からの声がけや音楽的な合図で2人組を形成する ・手をつないでステップしたり、列になったり、トンネルをつくったり、シーソーのように交互に動いたりする ・動作を行う人と真似る人、餅をつく人とうすになる人などのように、異なる役割を担って活動する	○2人組・3人組 ・四分音符の音楽では一人で歩き、二分音符の音楽では2人組でゆれたりシーソーをしたりするなど、リズムを聞き分けて動く ・3人で舟やそりを表現し、役割を交代させながら活動する ・歌のフレーズや、音楽の変化に応じて2人組を形成する	○2人組・3人組・8人組 ・前後になって肩をたたいたり、横に並んで手をつないで動いたりする ・一人一つの音（ドレミファソラシド）を担当し、音を聴取して歌ったりする ・3人で電車になり、ドミソの和音が聞こえたら、先頭の幼児がド、次の幼児がミ、次の幼児がソを歌う
Ⅱ	目的	・即時反応 ・基礎リズム ・様々な速度 ・集中力をやしなう	・即時反応 ・リズムフレーズ ・自由な身体表現	・即時反応 ・リズムフレーズ ・音の聴取（ドレミファソラシド） ・和音の分解唱（ドミソ）
	活用例	○2人組、3人組など ・異なる役割（餅をつく人とうすになる人、先頭と後ろにつながる人など）を交代で行う ・2人で手をつなぎ、音楽の速さに合わせて、ステップしたり歌ったりする ・一人で動き、音が止まると2人で橋をつくったり、音楽が変化するとシーソーの動きを2人で表現したりする	○2人組、3人組など ・指導者の声がけで○人組になったり、近くの人と即座に握手をしたりする ・1人で動き、二分音符の音楽になると2人でボートを漕ぎ動きをしたり、指導者の声がけで近くの人と即座に握手したりする ・波の動きを自由に表現する	○2人組、3人組、8人組など ・音楽的な変化（歌など）により2人で行われる ・1人が動き、もう1人がその動きを模倣したり、1人が提示したリズムをもう1人が模倣したりする ・一人一つの音（ドミソなど）を担当し、歌ったりカードを提示したりする ・リズムカードを並べる
Ⅲ	目的	・想像表現活動	・拍（四分音符） ・模倣、動作の記憶と再現	・リズムパターン ・フレーズ ・強弱、空間、高低 ・拍子
	活用例	○2人組 ・向かい合って手をつなぎ、音楽に合わせて噴水のように交互に立ち上がる	○2人組・3人組など ・ケンパで動き、相手をみつめてジャンケンする ・3拍子の音楽に合わせて、「ベッタッタ」と切手を貼るように手合わせする ・音楽のテンポなどに合わせて、1人がポーズを示し、もう1人が真似る	○2人組、4人組など ・歌に合わせて2人組を形成する ・2人で交互に、球を打ちあう動作や、虹を描く動作を行ったり、実際にボールをころがしたり、突いたりする ・相手が大きな動作を提示したら、もう1人は反対言葉の小さな動作をする
Ⅳ	目的	・即時反応 ・ギャロップ ・曲の形式 ・拍 ・二分音符の体験 ・歌を楽しむ	・拍 ・身近な音に耳を傾ける ・いつくるのかというワクワクを味わう	・拍 ・リズムパターン ・様々な速度 ・拍子 ・リズムフレーズ ・形式
	活用例	○2人組、3人組など ・指示された人数でギャロップする ・3人組でゆっくりな動きをシーソーで表現し、また音楽が変化すると役割を交代していく ・ポルカの曲（拍子や形式）に合わせて、2人が向かい合って踊る	○2人組、3人組 ・2人で前後になって歩き、保育者の声による合図で前後を交代したり、前にいる相手の肩をたたくことで前後を交代する ・1人で動き、2拍子で向かい合った相手と、3拍子で向かい合った相手を固定し、拍子を読み分け相手を探す ・3人で輪になった縄を持ち、リズムパターンに合わせて縄を動かす	○2人組など ・2人で向かい合い、片方の手で四分音符をたたき合い、もう片方の手で八分音符をたたき合う ・曲に合わせて、1人が2小節歩いたら、次にもう1人が2小節歩いたり、2人が向かい合って、一緒に4歩前に歩いたら4歩後ろに下がったりする

まず、活動の目的・目標について述べる。3歳児は、「即時反応の体験」「基礎リズムの体験と聞き分け」「歌に親しむ」「拍子の体験」「様々な速度の体験」「拍の体験」「曲の形式の体験」「いろいろな動作の工夫と模倣」「集中力をやしなう」「想像的活動の体験」が挙げられた。4歳児では、3歳児の項目に加えて「フレーズの体験」「リズムフレーズの体験」「高低の聞き分け」「自由な身体表現」「協力して動作する」「身近な音に耳を傾ける」「いつくるのかというワクワクを味わう」が挙げられた。5歳児は、「リズムパターンの体験」「ドレミファソラシドの聴取」「和音の分解唱」が5歳児独自の項目として挙げられた。

次に“何人組”の活用方法について述べる。3歳児は、①手をつないでステップしたり、向かい合ってシーソーをしたり、列になってステップしたりする、②声がけや音楽的な合図（音楽の停止、リズムの変化、曲の変化、うたの挿入など）により相手を選択する、③声がけや音楽的な合図（アルペジオなど）で列の先頭などを交代する、④役割分担で動く（餅をつく人とうすになる人など）、⑤相手の動きを模倣する、⑥相手と交互に動く、が確認された。4歳児では、3歳児で用いられていた方法と概して同じであったが、①における動きの種類が増えたり、③の際に指導者による声や音楽での合図だけでなく、2人組の相手が肩をたたいたり手を握るなど触覚による合図が加わった。5歳児では、⑤の際に、動作を真似るというよりも、1人がステップしたリズムを相手が空間を移動しながら模倣する活動が見受けられた。

年齢別に多く取り上げられた活動は、3歳児は「何人組という指導者の声がけにより何人組でギャロップなどする」「基礎リズムの体験」、4歳児は「基礎リズムの体験」、5歳児では、「リズムパターンの体験」「リズムフレーズの体験」であった。

3-3 何グループでの活動について

何グループで行う活動の目的と活用例に関してまとめたものを表4に示す。各指導書の示し方は前述したとおりである。

まず、活動の目的・目標について述べる。3歳児は、「即時反応の体験」「基礎リズムの体験と聞き分け」「様々な速度の体験」「高低の聞き分け」「音の聴取」「歌を楽しむ」「動きの体験」が挙げられた。4歳児において、「フレーズの体験」「リズムパターンの聞き分け」「自由な身体表現」「想像的な活動の体験」「複リズムの体験」「和音の分担唱」の項目が新たに挙げられた。5歳児では、「カノン」「合奏の体験」「拍子の聞き分け」が5歳児独自の項目として挙げられた。

次に“何グループ”の活用方法について述べる。3歳児

は、①異なる音楽要素（基礎リズム、音の高低）ごとにグループをつくり聞き分けて動く（例えば、四分音符グループと二分音符グループに分かれ、提示されたリズムのグループだけ動く）、②異なる役割（例えば、橋になる人と歩く人）でグループ分けし、後に役割交代する、③列になって動く、④動くグループと見ているグループをつくる（休憩させたり、個別指導をするため）、が確認された。4歳児では、①の音楽要素にリズムパターンと和音の構成音が加わり、また新たに⑤2つのグループをつくり交互に歌ったり動いたりする、⑥異なるリズムでグループをつくり同時に動いたり演奏したりする、が見受けられた。5歳児では、①に拍子が加わり、⑦2つのグループをつくりカノンで歌を歌う、が5歳児独自の方法として確認された。

年齢別に多く取り上げられていた活動は、3歳児では「基礎リズムの体験と聞き分け」、4歳児では「基礎リズムの体験と聞き分け」「複リズムの体験」、5歳児では「複リズムの体験」「フレーズの体験」「カノンの体験」であった。

3-4 全員での活動について

全員で行う活動の目的と活用例に関してまとめたものを表5に示す。各指導書の示し方は前述したとおりである。

まず、活動の目的・目標について述べる。3歳児では、「スキップの体験」「即時反応の体験」「わらべ歌を楽しむ」「拍の体験」「拍子の体験」「様々な速度の体験」「ニュアンスの体験」「動作の模倣」が挙げられた。4歳児では、「リズムフレーズの体験」が加わり、5歳児では、「フレーズの体験」「リズムパターンの体験」「自由表現の体験」が確認された。

次に“全員”の活用方法について述べる。3歳児では、①円になり手をつなぎ左右に動いたり隣の人に物を渡したりする、②円になり少人数が円の中に入り動く、③1人が動き、音などの合図で次の人に交代する、④1人の動きを全員が模倣する、が挙げられた。4歳児では、⑤二重円になって前の人と手をつないで動く、が新たに確認された。5歳児では、⑤の際に横にずれて相手を交代する方法が確認され、また⑥一列になって動く、が挙げられた。

年齢別に多く取り上げられていた活動は、3歳児と4歳児は「歌を用いた活動」、5歳児は「フレーズ、リズムフレーズの体験」であった。

4 総合考察

本研究では、幼児の年齢別におけるグループの活用方法について調査した。その結果、以下のことが明らかになった。

まず、3歳児と4歳児において指導書ごとに取り扱う活動数に違いが見られた。そのため、指導者のねらいや対象

表4 年齢別における「何グループ」の活用方法について

形態		3歳児	4歳児	5歳児
I	目的	・歌を楽しむ ・八分音符 ・即時反応	・複リズム	・カノン ・拍子 ・複リズム ・合奏 ・フレーズ
	活用例	○2グループ ・異なる役割でグループをつくり（バスグループとトンネルグループ、花グループとちょうちょうグループ、橋グループと歩くグループ）活動する	○2グループ・3グループ ・異なる基礎リズムでグループを形成し、聞き分けたり、同時に動いたりする	○2グループ・3グループ ・異なる拍子グループで聞き分けたり、異なるリズムグループで同時に演奏したりする ・2つのグループに分け、輪唱する ・列の先頭が曲に合わせて最後尾に動く
II	目的	・基礎リズム ・様々な速度 ・高低 ・音の聴取	・即時反応 ・リズムパターン ・複リズム ・和音 ・基礎リズム ・フレーズ ・音の高低 ・歌を楽しむ ・自由な身体表現 ・想像的な活動	・基礎リズム ・拍子 ・フレーズ ・複リズム ・カノン ・和音 ・ドレミファソラシド ・自由な身体表現 ・想像的な活動
	活用例	○2グループ、3グループ、4グループ ・異なる役割（橋グループと歩くグループ、バスグループとトンネルグループなど）でグループをつくり活動する ・基礎リズム（四分音符、二分音符、八分音符、スキップ）ごとに動物や乗り物の動きをあてはめてグループをつくり、聞き分けて動く ・動くグループと見ているグループをつくり少人数で活動したりする	○2グループ、3グループ、4グループ ・異なるリズム、リズムパターン、音（ドミソドなど）、楽器などでグループを形成し、聞き分けて動いたりする ・のこぎり、カンナ、キリ、カナヅチを使う時の動きを基礎リズムにあてはめて、グループごとに聞き分けて動く ・歌に合わせて、拍をたたく人とメロディーをたたく人と分かれ、簡単な合奏を行う	○2グループ、3グループなど ・異なるリズム、リズムパターン、音（ドレミファソラシドなど）や和音、楽器などでグループをつくり、聞き分けて動く ・2つのグループに分かれ、交互に動いたり歌ったり、同時に演奏したり、追いかけるように歌ったりする。 ・様々な葉っぱを想像し、自身が選択した葉っぱごとに自由に動く
III	目的	・動物あそび（両足飛び）	・基礎リズム ・複リズム	・基礎リズム ・フレーズ ・複リズム
	活用例	○2グループ ・2グループに分かれて、疲れやすい動きのためのため交互に行う	○2グループ、3グループ ・動物、道具、乗り物などの動きを異なるリズムにあてはめてグループをつくり、音楽（リズム）を聞き分けて動いたり、2つ以上のグループが同時に動いたりする	○2グループ ・異なるリズムでグループを形成し、別々に動いたり、同時に動いたりする ・交互に動く
IV	目的	・即時反応	・基礎リズム	・拍子
	活用例	○2グループ ・花役とちょうちょう役になり、音楽に合わせてちょうちょうが飛び、音の合図で花役にとまる	○3グループ ・異なるリズムを動物にあてはめ（うさぎ、くま、リス）、それぞれのグループで聞き分けて動く	○3グループ ・2拍子、3拍子、4拍子グループに分かれ、聞き分けてボールをつく

表5 年齢別における「全員」の活用方法について

形態		3歳児	4歳児	5歳児
I	目的	・速度の変化 ・音のなる方向 ・スキップ ・わらべ歌に親しむ ・動作の模倣 ・即時反応	(記載なし)	・フレーズ ・リズムフレーズ
	活用例	○円 ・円をつくり、歌ったり動いたりする ・一人が動き、歌の終わりや音の合図で次の人に交代していく ・一人が身体表現し、その表現を全員で模倣する	(記載なし)	○円・二重円 ・円になり手をつなぎ、左や右に動いたり、前や後ろに動いたりする ・二重円で内円と外円が向かい合う ・一人が動き、歌の終わりや音の合図で次の人に交代していく
II	目的	・即時反応 ・模倣表現 ・スキップ	・スキップに慣れる ・歌を楽しむ ・リズムフレーズの体験	・拍子 ・リズムフレーズ ・自由表現
	活用例	○円 ・一人が動き、音の合図で次の人に交代していく	○円 ・一人が動き、音の合図で次の人に交代していく ・手をつなぎ円になって歌う	○円、二重円、一列 ・二重円で前の人と手合わせしたり横にずれたりする ・1人が動きリレーのように交代したり、1人が提示したリズムを全員が模倣する
III	目的	・乗り物あそび（拍子） ・動物あそび（軽く走る）	・基礎リズム	・リズムパターン
	活用例	○円 ・円になり、1拍目で一歩ステップする ・一人が走り、歌が終わったら次の人に交代していく	○二重円 ・二重円をつくり、前の人と手をつないで、音楽に応じて右へ歩いたり、その場で回ったりする	○円・二重円 ・二重円で向き合い、それぞれが右にリズムパターンをステップし、合図で前の人と手合わせをする
IV	目的	・わらべうたを楽しむ ・拍 ・ニュアンス	・拍	・拍子 ・フレーズ
	活用例	○円 ・“ひらいたひらいた”や“かごめかごめ”を円になって行う	○円 ・“あんたがたどこさ”のわらべうたに合わせて、“さ”の部分でボールをわたす	○円 ・円になって、“思い出のアルバム”や“メヌエット”などに応じた動きを行う

児の状態に応じてグループでの活動を取り入れる必要があるように感じられた。次に、グループなどの活動形態を用いる目的として、音楽的な側面や身体的な側面の育成は多く見受けられたが、コミュニケーションをとるなど全般的な側面を目的として挙げた活動は「協力して動く」「集中力をやしなう」のみであった。そして、グループの種類ごとに年齢別に多く用いられていた指導目的と、3歳児、4歳児、5歳児を通して見られた全体的な活用方法の種類が明らかになった(表6)。

また、何人組や全員での活動の際に、声かけや音楽的な合図で相手を選択したり交代したりする方法が多く確認されたが、相手選択の促し方が指導書ごとに異なっていた。相手を選択する際の留意点として、「すぐに近くの人と」「だれとでも」(板野, 1975; 全日本リトミック音楽教

育研究会, 1985a, 1986), 「近くにいるお友だちと」(神原, 2013) という記載がある一方で、「お友だちを選ぶのに時間がかかる子がいても、気持ちの整理がつくまできちんと待ってあげましょう」(神原, 2013) という記載も見受けられた。このように、即時的に誰とでもかかわるように促す方法と幼児の主体性を重んじる方法とで、全く異なる方法が示されていた。

本研究は指導書の比較を通してグループでの活動の取り扱い方を調査するとどまった。今後、2人組などでの相手選択においてどのような方法が幼児にとって有益な活動となり得るのか、またグループでの活動形態が幼児の成長にどのように影響するのかについて実際の活動現場から明らかにしていきたい。

表6 年齢別に多く用いられていた指導目的と全体的な活用方法について

	何人組	何グループ	全員
3歳児	「何人組という指導者の声かけにより何人組でギャロップなどする」「基礎リズムの体験」	「基礎リズムの体験と聞き分け」	「歌を用いた活動」
4歳児	「基礎リズムの体験」	「基礎リズムの体験と聞き分け」 「複リズムの体験」	「歌を用いた活動」
5歳児	「リズムパターンの体験」 「リズムフレーズの体験」	「複リズムの体験」「フレーズの体験」 「カノンの体験」	「フレーズ、リズムフレーズの体験」
活用方法	①手をつないでステップしたり、向かい合って手合わせしたり、列になってステップしたりする ②声かけや音楽的な合図(音楽の停止、リズムの変化、曲の変化、うたの挿入)により相手を選択する ③声かけや音楽的な合図、触覚による合図(アルペジオ、相手が肩をたたくや手を握るなど)で列の先頭などを交代する ④役割を分担して動く ⑤相手の動作やステップを模倣する ⑥相手と交互に動く	①異なる音楽要素ごとにグループをつくり聞き分けて動く ②異なる役割でグループをつくり、後に役割を交代する ③列になって動く ④動くグループと見ているグループをつくる ⑤2つのグループで交互に動いたり歌ったりする ⑥異なるリズムでグループをつくり同時に動く ⑦2つのグループでカノンをする	①円になり手をつなぎ左右に動いたり隣の人に物を渡したりする ②円になり少人数が円の中に入り動く ③1人が動き、音などの合図で次の人にリレー方式で交代する ④1人(リーダー)の動きを全員が模倣する ⑤二重円になって前の人と手をつないで動いたり、横にずれて相手を交代したりする ⑥一列になって動く

引用文献

- ダルクローズ, E.J. 板野平(監修) 山本昌男(訳) 2003 リズムと音楽と教育 全音楽譜出版社
 エリザベス・バンドゥレスパー 石丸由理(訳) 2012 リトミック教育のための原理と指針: ダルクローズのリトミックドレミ楽譜出版社
 井上恵理・酒井美恵子 2012 リトミックでつくる楽しい音楽授業 明治図書出版
 石井亨・江崎正剛 1992 改訂新版 楽しいリトミック1 オブラ・パブリケーション
 石井亨・江崎正剛 1993 改訂新版 楽しいリトミック2 オブラ・パブリケーション
 石井亨・江崎正剛 1995 改訂新版 楽しいリトミック3 創芸書房
 石丸由理 2017 基礎からわかるリトミック!リトミック! ひかりのくに

- 板野平 1975 動きのためのピアノ即興演奏法: リトミック・プレイルーム ひかりのくに
 神原雅之 2013 楽しみながらからだを動かす1〜5歳のかんたんリトミック ナツメ社
 菅沼邦子 2010 小学校の音楽授業におけるリトミックの活用: 共通事項とリトミックの照合をととして ダルクローズ音楽教育研究, 35, 60-66.
 全日本リトミック音楽教育研究会[編] 板野平・溝上日出夫[監修] 1986 ダルクローズ・システムによるリトミック指導1: 3歳児用 全音楽譜出版社
 全日本リトミック音楽教育研究会[編] 板野平・溝上日出夫[監修] 1985a ダルクローズ・システムによるリトミック指導2: 4歳児用 全音楽譜出版社
 全日本リトミック音楽教育研究会[編] 板野平・溝上日出夫[監修] 1985b ダルクローズ・システムによるリトミック指導3: 5歳児用 全音楽譜出版社